

### Ⅲ 研究活動

#### 1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

| 教員名    | 研究課題   |
|--------|--|
| 蓮見 孝   | ウェルネスに着目した療養環境改善と地域創生に関する研究  |
| 酒井 正幸  | 生態展示施設のグランドデザイン<br>ユニバーサルデザイン研究  |
| 城間 祥之  | デザイン価値の測定・評価方法に関する研究<br>—日本/西洋由来加工食品のパッケージデザインの印象評価—   |
| 上遠野 敏  | 現代美術創作研究<br>同時代の美術研究<br>日本の美意識研究   |
| 安齋 利典  | 製品デザインとデザインマネジメントに関する研究<br>デザインとデザイナーの役割に関する研究   |
| 石井 雅博  | 三次元世界における視覚の認知・感性に関する研究  |
| 石崎 友紀  | 地域型デザイン製品の開発研究   |
| 齋藤 利明  | オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出   |
| 中原 宏   | 都市機能の多様性と地域ポテンシャルに関する研究  |
| 羽深 久夫  | 北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用<br>米国・東欧・北欧及び東アジア（中国・韓国・台湾）における木造建築の保存・再生・活用<br>日本および世界における医療施設・福祉施設の調査<br>世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流 |
| 原 俊彦   | ドイツと日本における無子の増加に関する研究（継続）<br>超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン（継続）<br>地域社会の人口減少・少子高齢化に対する施策の研究                               |
| 細谷 多聞  | 視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究   |
| 町田 佳世子 | 会話の進展構造に関する研究  |
| 矢部 和夫  | 地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究  |
| 吉田 和夫  | 組織活性化におけるV I（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について   |
| 吉田 恵介  | コミュニティデザイン手法によるエリアマネジメントの可能性に関する研究   |
| 柿山 浩一郎 | 学生のインタラクションに関する学びを誘発するシミュレータに関する研究   |
| 斉藤 雅也  | 非定常温熱環境下の人体エクセルギー収支の解明   |
| 武田 亘明  | クリエイティブ人材育成のための実践的学びのデザイン  |
| 張 浦華   | 北の風土に適した生活道具の提案  |
| 山田 良   | 環境芸術の北方圏地域に果たす役割   |
| 石田 勝也  | サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築   |
| 上田 裕文  | 風景イメージスケッチ手法を用いた風景計画に関する研究   |
| 大淵 一博  | 感性評価アプリケーション開発と評価に関する基礎研究  |
| 片山 めぐみ | 福祉事業者が支援する高齢者の共助コミュニティ   |
| 小宮 加容子 | 子どもを対象にした身体・認知の発達に適したデザインに関する研究  |
| 杉本 達應  | 情報の視覚化に関する技術調査と教材開発  |

| 教員名    | 研究課題  |
|--------|---|
| 福田 大年  | スケッチを活用した協創型グループディスカッションの手法の構築  |
| 松井 美穂  | アメリカ南部文学研究  |
| 松永 康佑  | 身体への映像投影表現に関する研究  |
| 三谷 篤史  | メカトロ積み木を応用した視覚的記憶トレーニングツールの実証実験   |
| 金子 晋也  | tiny spaceに関する研究  |
| 須之内 元洋 | 文化資産のオープンソースデジタルアーカイブプラットフォームの開発<br>音響特徴量を活用したフィールド・レコーディング用アプリケーションの開発 |

**看護学部**

| 教員名       | 研究課題  |
|-----------|---|
| 中村 恵子     | 大学院教育における高度実践看護に関する研究（継続）   |
| 樋之津 淳子    | 針刺し切創による感染を防止するための教育プログラムの開発  |
| 山本 勝則     | 精神看護学におけるシミュレーション教育<br>患者体験の理解  |
| 宮崎 みち子    | 女性の健康保護と婚姻  |
| 猪股 千代子    | 自然治癒力を惹起させる時空間・コミュニティの設計に関する研究  |
| 小田 和美     | 慢性期看護に携わる熟練看護師の療養支援の実践知の可視化に関する研究                                       |
| 河原田 まり子   | ソーシャルキャピタルを活用した公衆衛生看護活動の推進  |
| 川村 三希子    | 人生の最終段階にある患者のリアルニーズを聴くためのコミュニケーションスキルプログラムの開発と効果                        |
| 定廣 和香子    | 実習安全に向けた教授活動自己評価尺度の開発   |
| スーディ神崎 和代 | 医療事前指示書に関する認識の国際比較<br>認知症状遅延に関する研究<br>ICTを用いたE-KANGO及びE-KURASHI研究       |
| 松浦 和代     | 低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用                                 |
| 上村 浩太     | 北海道の小児がん医療に携わる看護師へ向けた動画教材の開発と評価   |
| 大野 夏代     | マッサージなど看護技術や統合医療に関する研究<br>国際的活動の計画や評価に関する研究                             |
| 貝谷 敏子     | 創傷看護学におけるヘルス・テクノロジーアセスメントの構築  |
| 菊地 ひろみ    | 訪問看護ステーションの看護師教育プログラム開発に係る研究  |
| 清水 光子     | 都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動                                    |
| 菅原 美樹     | 高度実践看護師の教育と評価に関する研究   |
| 古都 昌子     | 看護学を学ぶ学生および看護職として生きる看護師の生涯発達に関連した研究<br>看護学生の臨地実習における環境の実態と改善策の検討に関連した研究 |
| 村松 真澄     | 介護保険施設における口腔ケアに関する看護管理的取り組みの介入が対象者（入院、入所者）の心身に及ぼす影響に関する調査               |
| 守村 洋      | メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究）                 |
| 渡邊 由加利    | 妊娠期・育児期にある家族を対象とした親準備教育プログラムの検討<br>助産技術の実践力を高めるための教育内容の検討               |

| 教員名    | 研究課題   |
|--------|--|
| 神島 滋子  | 高次脳機能障害家族の生活の実態と支援に関する研究<br>大学教員の支援による一般病院看護指導の効果  |
| 工藤 京子  | 呼吸器疾患患者の栄養に関する想いと食行動の実態  |
| 田中 広美  | 看護教育と学習に関する研究  |
| 原井 美佳  | 中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究   |
| 藤井 瑞恵  | 血液透析患者の地域差とうつ傾向の関係   |
| 三上 智子  | 小学校児童の「いのち」の教育の実践と課題の検討  |
| 森川 由紀  | 生殖補助医療によって出産した女性の育児期の体験  |
| 矢野 祐美子 | 看護師のエンパワーメント経験の分析  |
| 山内 まゆみ | 助産学専攻科生1～5期終了生の助産業務能力、およびキャリアの実態調査   |
| 山本 真由美 | 母性看護学における実践能力を強化するための教材の開発   |
| 石引 かずみ | わが国の正常出産におけるマタニティケアシステムの違いによる経済効率の比較<br>－助産師主導の院内助産と医師主導の医療施設に焦点をあてて－                              |
| 小田嶋 裕輝 | 2型糖尿病患者の首尾一貫感を高める患者教育プログラムの開発と検証   |
| 柏倉 大作  | 術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築<br>動画を活用した自己学習支援型の注射のシミュレーション教育に関する研究                                |
| 近藤 圭子  | 地域在住高齢者の自己効力感と保健行動の関連  |
| 田仲 里江  | 地域保健分野におけるソーシャル・キャピタルに関する研究  |
| 坂東 奈穂美 | 多職種で構成されたチームにおける協働   |
| 檜山 明子  | 入院患者に対する転倒予防対策に関する研究   |
| 星 幸江   | 長期入院統合失調症患者の退院好機を見定める臨床判断要素<br>～熟練看護師の関わりに焦点を当てて～  |
| 御厩 美登里 | 在宅死を促進する要因に関する研究<br>訪問看護師の職務継続意向に関連する要因  |
| 横川 亜希子 | 就職後早期に医療事故の当事者となった看護師の職業経験に関する研究<br>－医療事故の克服過程で生じた経験に焦点を当てて－<br>夕張市清水沢地区の炭鉱遺産をめぐるウォーキングマップの活用状況と改善 |
| 木田 妙   | 出産前の女性の骨盤の緩み・ゆがみの実態と骨盤ケアによる変化  |

## 2 学内公募研究課題一覧

### 学術奨励研究

| 教員名    | 研究課題   |
|--------|--|
| 古都 昌子  | 看護職のワークキャリアとライフキャリアの融合を目指す『子育て経験活用術』の提案に向けての検討               |
| 上田 裕文  | 森林を活用した健康保養地形成に関する北海道とラップランドの比較研究                            |
| 杉本 達應  | 映像アーカイブを活用するためのモバイルアプリ開発研究                                   |
| 松永 康佑  | 身体計測システムを用いた地域の新伝統芸能のアーカイブ化に関する研究                            |
| 金子 晋也  | 建築構法からみる北海道農山漁村の建築文化の固有性に関する研究                               |
| 横川 亜希子 | 就職後早期に医療事故の当事者となった看護師の職業経験に関する研究<br>－医療事故の克服過程で生じた経験に焦点を当てて－ |

### 共同研究

| 教員名   | 研究課題   |
|---|--|
| ◎定廣 和香子 山田 良  | 空間的療養効果を重視したArt in Hospital モデルの構築   |
| ◎樋之津 淳子 中村 恵子<br>田中 広美 藤井 瑞恵<br>矢野 祐美子 樋口 春美<br>勝見 真澄 | 看護コンソーシアムの構築に関する開発研究   |
| 山田 良  | 北欧都市の市街地・景勝地における地域活性化を目的とした環境芸術に関する研究－ノルウェー・オスロ市、トロンハイム市の最新事例調査とワークショップ実践を通じて－ |
| ◎原井 美佳 村松 真澄<br>近藤 圭子                                 | 寒冷な特別豪雪地帯に居住する高齢者の健康と暮らしについての研究  |
| ◎福田 大年  | デジタルファブリケーションと参加型デザインを取り入れた、札幌の資源を豊かに体験するコンテンツ制作キット構築の基礎研究                     |
| ◎藤井 瑞恵  | 維持透析患者の地域格差と精神的健康との関係<br>－治療のため転居・長期入院を選択したケースに焦点をあてて－                         |
| ◎三谷 篤史 蓮見 孝<br>細谷 多聞 守村 洋                             | 能動アート型ナースコールへの話しかけ行動や触知行動を検出するデバイスの開発  |

◎印：代表者

### 田村ICT基金

| 教員名    | 研究課題  |
|--------|---|
| ◎松永 康佑 | 雪像三次元を用いたデジタルアーカイブの構築～VR技術を利用した仮想札幌雪まつりの制作～ |

◎印：代表者

### 採択状況

| 学術奨励研究 |      | 共同研究 |      | 田村ICT基金 |      | 合計   |      |
|--------|------|------|------|---------|------|------|------|
| 応募件数   | 採択件数 | 応募件数 | 採択件数 | 応募件数    | 採択件数 | 応募件数 | 採択件数 |
| 7      | 6    | 7    | 7    | 1       | 1    | 15   | 14   |



### 3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

#### 科学研究費助成事業（科研費）

| 研究代表者     | 研究課題                                      | 研究種目    | 金額（円）     |
|-----------|---|---------|-----------|
| 羽深 久夫     | 明治期以降の北海道における枠内構法の民家の歴史的展開過程              | 基盤研究（C） | 650,000   |
| 石井 雅博     | 視対象への能動的関与による視聴覚の変調                       | 基盤研究（C） | 780,000   |
| 河原田 まり子   | 地域保健活動評価のためのソーシャル・キャピタル測定尺度の開発            | 基盤研究（C） | 1,430,000 |
| 川村 三希子    | 認知症高齢がん患者の疼痛マネジメントの質の向上を目指した疼痛アセスメント指標の開発 | 基盤研究（C） | 910,000   |
| 定廣 和香子    | 学生による医療事故防止に向けた実習安全FD展開モデルの開発             | 基盤研究（C） | 1,430,000 |
| スーディ神崎 和代 | 在宅死を可能にするための在宅ケア基盤づくりの方略・フィンランドと日本の比較     | 基盤研究（C） | 780,000   |
| 原 俊彦      | 北海道・札幌市の人口減少、その未来への対応・地域人口分析システムの構築       | 基盤研究（C） | 1,300,000 |
| 貝谷 敏子     | 看護経済学の構築に向けた基盤研究<br>—褥瘡患者立脚型QOL評価指標の開発—   | 基盤研究（C） | 1,560,000 |
| 柿山 浩一郎    | 無意識動作で測るポジティブ感・ネガティブ感に関する研究               | 若手研究（B） | 390,000   |
| 菊地 ひろみ    | 多発性硬化症患者に対する認知行動療法の導入およびアウトカム評価           | 基盤研究（C） | 520,000   |
| 斉藤 雅也     | 小学児童の想像温度に基づく地域住育プログラムの開発研究               | 挑戦的萌芽研究 | 910,000   |
| 清水 光子     | 都市に暮らす高齢者のソーシャル・キャピタルの実態と今後の地域保健福祉活動      | 基盤研究（C） | 1,820,000 |
| 菅原 美樹     | 高度実践看護師の臨床推論・判断能力を強化するシミュレーション教育プログラムの開発  | 基盤研究（C） | 1,170,000 |
| 村松 真澄     | 口腔ケアシミュレーションモデルの開発                        | 挑戦的萌芽研究 | 2,990,000 |
| 石田 勝也     | 地域の精密な環境情報を使用したデータビジュアライズの公共空間への応用        | 基盤研究（C） | 2,210,000 |
| 上田 裕文     | 森林利用型樹木葬墓地の導入可能性と課題に関する研究                 | 若手研究（B） | 910,000   |
| 片山 めぐみ    | 高揚感記録モバイルアプリ開発による新しい景観資源収集と観光客誘致の仕掛けづくり   | 若手研究（A） | 780,000   |
| 工藤 京子     | 北海道における患者を主体とした自助行動としてのHOT患者災害時避難システム     | 基盤研究（C） | 650,000   |
| 小宮 加容子    | 散剤に適した子どもの服用動作分析および処方薬分包袋のデザイン提案          | 基盤研究（C） | 1,300,000 |
| 田中 広美     | 看護職者の職務遂行困難状況に対するレジリエンス向上支援の研究            | 基盤研究（C） | 520,000   |
| 原井 美佳     | 中年期女性の尿失禁リスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究        | 基盤研究（C） | 780,000   |
| 福田 大年     | スケッチを活用した協創型グループディスカッションの手法の構築            | 若手研究（B） | 1,170,000 |
| 松永 康佑     | 仮想身体における筋肉の隆起と揺れ表現のための全身筋電計開発に関する研究       | 基盤研究（C） | 780,000   |
| 三上 智子     | 小児看護OSCEにおける課題のピアレビューとネットワークの構築           | 基盤研究（C） | 1,430,000 |





| 研究代表者  | 研究課題                                     | 研究種目           | 金額 (円)    |
|--------|--|----------------|-----------|
| 小田嶋 裕輝 | 2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための患者教育プログラムの作成と検証      | 若手研究 (B)       | 520,000   |
| 柏倉 大作  | 術後回復強化プロトコルを活用した看護ケアガイドラインの構築            | 若手研究 (B)       | 910,000   |
| 田仲 里江  | 市町村保健師との協働によるタブレット型保健指導教材システムのプロトタイプ開発   | 若手研究 (B)       | 1,820,000 |
| 檜山 明子  | 患者の活動を妨げない転倒予防看護一転倒リスク行動アセスメントツールの有用性検証  | 若手研究 (B)       | 780,000   |
| 平尾 明美  | コーパス分析に基づく救急看護教育支援のためのデータベースの構築及び解析      | 基盤研究 (C)       | 2,860,000 |
| 望月 由美子 | ヴェスパシアーノ・ゴンザーガの肖像研究：16世紀スペイン統治下のイタリア美術政策 | 研究活動<br>スタート支援 | 1,430,000 |
| 湯川 崇   | 積雪寒冷地における住宅地の雪処理に配慮した住宅設計システムの開発         | 基盤研究 (C)       | 650,000   |

※課題番号順

**科学研究費助成事業基盤研究A (科研A)**

| 研究代表者 | 研究課題                             | 研究種目     | 金額 (円)    |
|-------|----------------------------------|----------|-----------|
| 蓮見 孝  | タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究 | 基盤研究 (A) | 3,510,000 |

**①概要**

本研究は、地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持、および魅力創出のための手法の構築を目的として、平成25年度からの3カ年の計画で、アート&デザインを核に地方市町村と大都市を相補・連携させる「タイム・スペースシェアリング (略称：TSS)」手法による地域創成活動の実証実験を行い、その効果を検証するものです。

平成25年度の複数のフィールドでの活動をもとに、「人」「事」「場」「物」が地域の魅力のキーになる4要素になるとの仮説を構築しました。これを受け平成26年度は、北海道札幌市南区、三笠市、夕張市、寿都郡寿都町、虻田郡喜茂別町、沙流郡平取町で継続活動を行い、北海道有珠郡壮瞥町の全面的な協力を得て、夏期と冬期の札幌ー壮瞥町間の5組7名のシェアリング「居住実験」を行うと共に、延べ60名の3回に亘る「井戸端寺子屋WS」を実施しました。

以上を受け平成27年度には、居住実験で得られたデータをさらに補完するため、短期居住型ワークショップを開催しました。具体的には、若者の視点から地域を評価し、魅力や課題を浮き彫りにする必要があると考え、壮瞥町をフィールドに、20代の若年代 (全41名) を中心とした短期居住ワークショップとしました。その内容は、若者自身が地域を評価し魅力を活用し課題を解決する案を提案できるワークショップ型実験で、参加者は札幌在住の本学学生、東京在住の学生、台湾在住の台湾人学生により、複数の混成チームを編成するものでした。結果、以下の知見を得ました。

I：「若者が地方に対してどのような魅力を抱くのか、そしてどのような課題を見出すのか」という問題に対して、今回の実験では主にモノとしての地域資源を高く評価しているということが示されました。また、課題としては交通機関に関する問題など、ワークショップの中で実際に体験した内容を基に問題意識を内在させていることが示唆されました。

II：「若者による地域の魅力活用案・課題解決案は地元住民にどのように判断されるのかを明らかにする」という目的に対しては、地元住民が比較的高く評価する内容と外部民が高く評価する内容とでは異なっていることが示唆されました。

III：「若者・中高年・地元民・外部民という対比の中に何か特殊な相関関係が見えてくるかを明らかにする」という目的に対しては、部分的ではありますが相関関係を見出すに至りました。特に若年層や外部民による評価は地域が持つ実在するモノ要素によって高く評価されやすい傾向をうかがうことができました。

本研究では壮瞥町を対象としたワークショップ型短期居住実験を実施しましたが、このような実験をおこなうことによって、年齢や居住地の違いで地域への評価基準が異なることを示すデータを得ることが出来ました。サンプル数や実験地域といった点で、非常に限定的であり、一般性の低い結果と言わざるを得ず、次回以降の実験では、より実験的性質を強め実験環境の統制・統計的信頼性の向上を目指し研究計画と遂行を行っていく必要があるといえます。しかしながら、これまでに行われたことのないワークショップ型の短期居住実験をある程度統制した実験参加者を対象として実施した本研究は今後の地域創成デザイン研究にとって有意義な研究手法を提案・実施することができたと

いう点で十分な結果を残したといえると考えます。

以上のワークショップ型短期居住実験に加え、本科研費の最終年度にあたることから、全95ページにおよぶ報告書「地域創生をデザインする 都会と地方の魅力相乗モデル開発 (ISBN978-4-9908926-0-9 C3036)」を「札幌市立大学 地域創生デザイン研究会」を発行元として発行しました。本報告書は、3年間の研究成果を、「地域創生に興味がある一般の方に読み易いものとする」をコンセプトに研究者等が執筆したものであり、地域創生デザイン学の構築に向けた本研究の成果や今後の課題に言及する内容としました。

②実施体制  
 研究代表者：蓮見 孝  
 研究分担者：酒井 正幸、城間 祥之、中原 宏、上遠野 敏、原 俊彦、石井 雅博、斉藤 雅也、山田 良、柿山浩一郎、上田 裕文、片山めぐみ  
 研究補助員：矢久保空遥、南部 麻子

③研究組織  
 統括、大都市（札幌市）の魅力分析班、過疎市町村の魅力分析班、地域創成先行事例分析班、暮らし満足度定量化手法班、事務局

④主な事業実績

| 年月日                | 事業実績  |
|--------------------|---|
| 平成27年8月26日～9月1日    | 若者を対象とした国際ワークショップ型二地域居住実証実験（調査対象者：41名）  |
| 平成27年10月24日～10月25日 | 「考えよう! 地域の新しい暮らし方と未来」札幌デザインウィーク 2015 出展（参加者：約45名）   |
| 平成28年3月30日         | 「地域創生をデザインする 都会と地方の魅力相乗モデル開発」タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究報告書発行（全95ページ）ISBN978-4-9908926-0-9 C3036 |

受託研究費

| 研究代表者  | 研究課題  | 委託者           | 金額（円）     |
|--------|---|---------------|-----------|
| 中原 宏   | 創成東地区におけるアーバンデザインセンター（UDC）のあり方と創出方法に関する研究         | 札幌市（市民まちづくり局） | 2,892,780 |
| 矢部 和夫  | キウシト湿原植生調査研究                                      | 登別市           | 500,000   |
| 矢部 和夫  | 円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究                        | 札幌市（環境局）      | 500,000   |
| 吉田 和夫  | ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究—地下鉄円山公園駅からのアプローチ誘導サイン— | 札幌市（環境局）      | 500,000   |
| 吉田 恵介  | 芸術文化導入によるまちづくりに関する研究                              | 美瑛町           | 2,000,000 |
| 斉藤 雅也  | 大型商業施設における省エネルギー型建設環境システムのエコツアーのデザイン研究            | ㈱札幌副都心開発公社    | 960,000   |
| 斉藤 雅也  | 温熱環境・環境負荷に配慮したゾウ舎（仮称）のデザイン研究                      | 札幌市（環境局）      | 500,000   |
| 斉藤 雅也  | 森林保全・資源循環のための地域レベルのエネルギー解析                        | ㈱竹中工務店技術研究所   | 160,000   |
| 斉藤 雅也  | 生き物のハビタットとしての里山環境・都市公園のエネルギー環境の調査・解析              | ㈱竹中工務店技術研究所   | 100,000   |
| 片山 めぐみ | 動物福祉に配慮した動物愛護管理施設のハードとソフトのデザインに関する研究              | 札幌市（保健福祉局）    | 500,000   |
| 福田 大年  | ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）の飼育展示・サイン計画のデザイン監修               | 札幌市（環境局）      | 500,000   |

## 共同研究費

| 研究代表者 | 研究課題 | 委託者     | 金額 (円) |
|-------|------|---------|--------|
| 安齋 利典 | 非開示  | 三菱電機(株) | 非開示    |

**4 寄附金の受入状況**

| 教員名       | 寄附目的   | 寄附元            | 金額 (円)    |
|-----------|--|----------------|-----------|
| 中村 恵子     | 札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため  | (医)鳩仁会札幌中央病院   | 80,000    |
| 中村 恵子     | 看護研究の促進及び看護の質の向上のため  | (医)溪仁会 手稲溪仁会病院 | 105,000   |
| 中村 恵子     | 看護研究の促進及び看護の質向上のため   | (公財)北海道勤労者医療協会 | 200,000   |
| 中村 恵子     | 看護研究の促進及び看護の質向上のため   | JA北海道厚生連札幌厚生病院 | 210,000   |
| スーディ神崎 和代 | スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する                  | 新陽パソコン倶楽部      | 430,000   |
| スーディ神崎 和代 | スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する                  | 田村 いく子         | 3,500,000 |
| スーディ神崎 和代 | スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する                  | (株)中村縫製        | 30,000    |
| スーディ神崎 和代 | スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する                  | 奈良 賢           | 10,000    |
| スーディ神崎 和代 | スーディ教授が実施しているシニアや障害のある人たちのQOLの向上促進につながる研究・教育を支援する                  | 鷺尾 友信          | 30,000    |
| 矢部 和夫     | 釧路湿原生態系保全に関する研究  | 環境コンサルタント(株)   | 488,960   |
| 矢部 和夫     | 「ウトナイ湖北岸における湿生草原の再生手法検討—現地での堰上げ実験を想定した事前調査—」に対する研究助成               | (公財)リバーフロント研究所 | 800,000   |
| 村松 真澄     | 看護・福祉などにおけるボランティア活動を含む御校の教育研究および地域連携活動に賛同し、教員および学生のさらなる活躍、地域の発展のため | フィールド・クラブ(株)   | 200,000   |



## 5 海外出張記録

| 期間                    | 教員名       | 目的国            | 目的  |
|-----------------------|-----------|----------------|---|
| 平成27年5月7日<br>～13日     | 川村 三希子    | デンマーク、<br>フランス | 第14回 ヨーロッパ緩和医療学会 ポスター発表、ホスピス施設視察  |
| 平成27年5月14日<br>～22日    | 石井 雅博     | アメリカ合衆国        | Vision Sciences Society 15th Annual Meeting参加                           |
| 平成27年6月10日<br>～15日    | スーディ神崎 和代 | フィンランド         | 7 th KUOPIO Alzheimer Symposium (国際学会参加・発表)                             |
| 平成27年6月27日<br>～28日    | 金子 晋也     | 韓国             | Kookmin UniversityのGiljae Ahnとアジアの建築に関する研究打合せ、韓国のデザインに関する視察             |
| 平成27年7月28日<br>～8月2日   | 町田 佳世子    | ベルギー           | 第14回国際語用論学会大会 (The 14th International Pragmatics Conference) にて成果発表     |
| 平成27年7月31日<br>～8月7日   | 宮崎 みち子    | ポルトガル          | 第21回世界医事法学会参加   |
| 平成27年8月4日<br>～12日     | 上田 裕文     | フィンランド         | 学術奨励研究費「北海道とラップランドの健康保養地に関する比較研究」現地調査                                   |
| 平成27年8月18日<br>～21日    | 河原田 まり子   | 韓国             | 第6回国際地域看護学会参加   |
| 平成27年8月18日<br>～21日    | 田仲 里江     | 韓国             | 第6回ICCHNR参加   |
| 平成27年9月9日<br>～17日     | 金子 晋也     | アメリカ合衆国        | 入植期の木造建築・納屋の調査、近代建築の調査  |
| 平成27年10月6日<br>～13日    | 山田 良      | ロシア            | 国際会議およびワークショップ指導  |
| 平成27年10月22日<br>～24日   | 宮崎 みち子    | 韓国             | 10th International Nursing Conferenceに参加                                |
| 平成27年10月31日<br>～11月5日 | 松浦 和代     | オーストラリア        | The International Association of Societies of Design Research 2015参加、発表 |
| 平成27年10月31日<br>～11月6日 | 安齋 利典     | オーストラリア        | The International Association of Societies of Design Research 2015参加、発表 |
| 平成27年10月31日<br>～11月7日 | 三谷 篤史     | オーストラリア        | 国際会議IASDR2015への参加・発表  |
| 平成27年11月5日<br>～6日     | 山田 良      | 韓国             | 空間デザイン研究会打合せ  |
| 平成27年11月5日<br>～12日    | 定廣 和香子    | アメリカ合衆国        | sigma theta tau international 43rd Biennial Convention (研究発表)           |
| 平成27年11月11日<br>～15日   | 張 浦華      | 中国             | NBD (アジアネットワークビヨンドデザイン組織) 展覧会の関連打合せ、開会準備、作品見学及びオープニングセレモニー参加            |
| 平成27年11月18日<br>～24日   | 杉本 達應     | アメリカ合衆国        | 国際会議MES2015発表、ハーバード大学・マサチューセッツ工科大学視察                                    |
| 平成27年12月2日<br>～9日     | 張 浦華      | 中国             | 清華大学芸術と科学研究センターと廣東省仏山市、順徳区北窖鎮人民政府により合同開催されたデザインワークショップの引率               |
| 平成27年12月9日<br>～15日    | スーディ神崎 和代 | フィンランド         | 現地調査および研究協力者との打ち合わせ   |

| 期間                 | 教員名    | 目的国           | 目的   |
|--------------------|--------|---------------|--|
| 平成28年1月12日<br>～15日 | 原 俊彦   | ドイツ           | 日独シンポジウム「少子高齢化対策戦略」での報告・参加                       |
| 平成28年1月25日<br>～27日 | 山田 良   | 韓国            | 空間デザイン研究会参加                                      |
| 平成28年2月4日<br>～9日   | 須之内 元洋 | ドイツ           | transmediale及び創造産業拠点調査 産学官共同研究（北翔大、札幌大、民間企業、札幌市） |
| 平成28年3月6日<br>～11日  | 上田 裕文  | フィンランド、スウェーデン | ヌークシオ国立公園及びスコグスシュルコガーデン現地調査                      |
| 平成28年3月6日<br>～14日  | 原 俊彦   | ドイツ           | 招聘講演と共同研究打ち合わせ、学会参加                              |
| 平成28年3月9日<br>～13日  | 守村 洋   | 台湾            | 平成27年度台湾医療関係施設訪問・見学ツアー参加                         |
| 平成28年3月16日<br>～22日 | 山田 良   | ノルウェー、フィンランド  | 北欧都市の環境芸術 共同研究                                   |
| 平成28年3月22日<br>～25日 | 金子 晋也  | 台湾            | World Design Capital 2016視察                      |
| 平成28年3月22日<br>～28日 | 羽深 久夫  | 中国            | 武漢市のアーバンデザインセンター機能の事例調査                          |
| 平成28年3月23日<br>～27日 | 上田 裕文  | 中国            | 北京オリンピック都市構造の視察                                  |